

(様式1)

I. 学校の4点セットの設定と学校評価を活用した短期検証・改善の取組

佐伯市立西上浦小学校

1. 取組

統合を迎える本校は、今年度で133年の長い歴史に幕を下ろす。子どもたちの健全育成に非常に寛容な地区の風土に加え、これまで在籍した教職員の地域教材の開発努力も相まって、地域の方々からの温かい学習サポートの上で日々の学校生活を送ってきた。そのような特色を持つ本校の今年度の重点目標の設定には、地域とのふれあいや、統合先である八幡小学校との交流活動が学力向上とともに大きな柱となった。

「健やかな子どもの育成」の観点から、「全教職員で地域学習に取り組み、年間延べ130人以上の地域の方に学習活動に協力していただく」と、「各学級ともに、地域の方々や八幡小学校との交流を各学期2回以上実施する」ことを取り組みの指標として掲げた。

重点目標等の決定は、校長のリーダーシップのもと、小規模校であるため専門部会は設けずに、運営委員会に必要な担当を加えて調整を行った。職員会議における確認の中でも質問や代案なども活発に出され、教職員の地域学習への意識の高さが伝わってきた。

1学期末の学校評価では、「授業は分かりやすく楽しい」や「地域と連携を図りながら教育活動を行っている」に大きな成果があった。反面、「授業中自分の思いや考えを発表している」に課題が残った。そこで、自分の考えを持つ場を丁寧に設定し、その考えを発表する時間を十分に確保するように取り組んだ。その結果、2学期末の学校評価では8割を超える児童が肯定的な意見に変わった。

地域交流では、すでに2学期末までに150人を超える地域の方との交流を実施することができた。八幡小学校の受け入れ体制も充実しており、これまでに17回の直接交流を図ることができた。3学期は閉校準備が山場となるため地域学習中心となるが、地域の力を十分に借りながら、子どもたちに最後の思い出作りと今年度の学力保障を充実させるようにしたい。

2. 成果

教務主任が、地域共育担当と学校間交流担当を兼ねた校務分掌だったので、各方面とも連絡を取りやすく、情報が集中できたので、小回りをきかせた計画運営ができた。

3. 課題

小規模校であるがゆえ、各分掌の担当者が一人で、しかも10を越える分掌をまかなわねばならないことで、担当者任せの活動も多かった。サポート体制の充実を図りたい。

4. 改善

本校は今年度で閉校となるが、小規模校では校務分掌の複数保持が大きな課題となる。プロジェクトチームを組める人員も時間もないため、テーマ的にも参加者的にも自由度の高い運営委員会の開催や、十分練られた計画を職員会議において全教職員で確認しながら運営していくことで、より高次元なサポート体制を確立していくことができると考える。